

目 次

- あいさつ
大島地区文化協会連絡協議会会長 境 賢勇・・・・・・・・・・ 1
- 名瀬市民合唱団の活動について
名瀬市民合唱団団長 中村 恵美子・・・・・・・・・・ 2
- 昔の遊び
大和村文化協会会長 中山 昭二・・・・・・・・・・ 4
- 宇検村文化協会の活動について～関東宇検村会100周年を記念して～
宇検村文化協会事務局 柳 華子・・・・・・・・・・ 6
- 瀬戸内町文化協会の活動について
瀬戸内町文化協会会長 城山 洋子・・・・・・・・・・ 7
- 今も色濃く残っているわきやシマの文化～ショチョガマ・平瀬マンカイ～
秋名平瀬マンカイ保存会会員 重田 美咲・・・・・・・・・・ 10
- 「奄美パーク夏祭り～シマジマだより～喜界島」に出演して
喜界町文化協会会長 外内 千里・・・・・・・・・・ 12
- ダンススクールCORE 徳之島クラス
ダンススクールCORE代表 中 直美・・・・・・・・・・ 14
- 繋ぐ伝統芸能のバトン～大人も子どもも みんなで楽しむ集落行事～
天城町西阿木名民謡保存会 仲 恵・・・・・・・・・・ 16
- 島口つこわーで一 年に一度、みんなで楽しく島口を使う日・学ぶ日
伊仙町文化協会事務局 松田 博樹・・・・・・・・・・ 20
- 島の歴史を演劇を通じて広めよう！
～歴史創作劇「えらぶの西郷さん」「前田正名と正名字」公演～
劇団がじゅまる副主宰（和泊町文化協会青年部長）秋田 茂穂・・・・・・・・・・ 22
- 知名町文化協会活動について～新型コロナウイルスからの脱却～
知名町文化協会事務局 坂井 輝喜・・・・・・・・・・ 25
- ゆんぬエイサーの活動について～エイサーを通じた文化の継承・世代間交流～
ゆんぬエイサー代表 裾分 大喜・・・・・・・・・・ 29

あいさつ

大島地区文化協会連絡協議会
会長 境 賢勇

各市町村文化行政担当課及び各市町村文化協会の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

また、当協議会の事業に対しまして、日頃から御理解と御協力をいただき、深く感謝申し上げます。

この一年を振り返ってみますと、特に地域社会の絆が試される年でありました。自然災害や経済の変動など、予期せぬ出来事が私たちの生活に影響を及ぼしました。大島地区文化協会連絡協議会としましても、昨年11月に和泊町にて開催いたしました「第23回広域文化祭」におきまして、台風接近による悪天候を懸念し、各団体の判断により、沖永良部島島外の出演者の安全確保のため、来島及び出演を見送ることとなりました。しかし、そのような困難な状況においても、地域の皆様が一丸となり、会場を盛り上げようとする姿勢には心を打たれました。豊かな自然とそこに暮らす人々によって育まれてきた伝統行事や踊りが、群島各地区・集落で継承されていることは、地域文化の振興につながることはもとより、地域住民の大切な交流の場であることを改めて深く感じました。

また、昨年3月には、奄美群島を含む「薩南諸島の黒糖製造技術」が国の登録無形民俗文化財に鹿児島県内で初めて登録され、12月には、奄美黒糖焼酎を含む「伝統的酒造り」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。多彩な地域文化が息づく奄美で、先人たちが築いてきた伝統技術が、歴史的な価値を有するものとして認められたことは、大きな喜びでありました。

さらに、今年2月には、好評を博した「ほこらしや奄美音楽祭」が昨年に引き続き開催されました。世界自然遺産に登録された奄美の独自の文化であるシマ唄の魅力が発信されるとともに、奄美大島で結成され活動している「奄美オーケストラ」との初共演や地域でのミニコンサート、子ども向け演奏教室、今回初の取組である「島唄ワークショップ」の開催を通して、島の子どもから大人までが一流の音楽に触れ、アーティストと交流を深める貴重な機会になりました。

大島地区文化協会連絡協議会におきましても、平成19年度から2月18日を「方言の日」と定めたほか、これまで奄美地域のことわざや伝統文化、郷土料理についてのポスターを作成してきたところです。

大島地区文化協会連絡協議会としましては、今後とも、奄美の文化の振興と伝承に努めてまいりますので、関係の皆様には、御協力を賜りますようお願いいたします。

名瀬市民合唱団の活動について

名瀬市民合唱団団長 中村 恵美子

1 はじめに

名瀬市民合唱団は、昭和 50 年（1975 年）5 月に設立されて、多くの先輩方のご尽力により、令和 7 年（2025 年）に 50 周年という節目の年を迎えます。

地域に根ざして、合唱を通して多くの方と癒しの空間を共有できるように、これからも練習に精進して地域に貢献できればと思います。

2 趣旨・目的

- (1) 魅力ある楽しい合唱団，地域に根ざし，市民とともに歩む合唱団づくりを目指します。
- (2) 日常の練習を重視し，内容を充実させ，その積み上げとして一つ一つのステージや演奏会を成功させます。
- (3) 心のハーモニーを大切にし，喜びや悲しみを分かち合える合唱団を目指します。

3 活動概要

- (1) 定期演奏会（隔年）
- (2) 市民とともに歌う夕べ（年 2 回）
- (3) 出前コンサート（老人ホーム・保育所等）
- (4) 奄美市民文化祭（毎年）
- (5) 定時練習（週 1 回）

4 令和 6 年～令和 7 年の活動実績と活動予定

日時	行事名	会場
令和 6 年 7 月 14 日	市民とともに歌う夕べ	A i A i 広場
令和 6 年 8 月 11 日	歌のチカラ賛助出演	アマホーム PLAZA
令和 6 年 10 月 23 日	奄美市民文化祭	奄美川商ホール
令和 7 年 3 月 2 日	創立 50 周年定期演奏会	奄美川商ホール

5 活動状況



(奄美市民文化祭)



(市民とともに歌う夕べ)

6 成果と今後の課題

成果としては、色々なイベントを開催するにあたり、メディアを使って告知をする場面が多いことから、知名度は上がっているように感じられます。

課題としては、団員の構成面において、専門学生から80歳代までと幅広くなっていますが、現実的には60～70歳代までの年齢層が主流を占めております。先々の事を考えると不安になりますが、後継者育成等にも真摯に取り組む必要性があります。

7 おわりに

合唱（趣味）を通して、自分のルーティンのひとつとして生活にリズムをつけることは心身ともにプラスになると思いますし、そのきっかけとして合唱の楽しさを色々な場面でPRして、団員拡大に繋がれば良いと思います。

昔の遊び

大和村文化協会会長 中山 昭二

1 はじめに

現代のように物にあふれ、日々進化していく世の中で生まれた子供たちには、昔の子供たちの遊びは想像もつかないことだと思います。時代の流れに伴い、子供の遊びも変わっていくことは当然のことだと思いますが、親や祖父母が幼い頃の暮らしや遊びを知ることも子供にとって大切なことであり、成長していく中で子供自身が今の暮らしや遊びと比較して考えることは、想像力を豊かにすると思います。今年度は、小学5・6年生に対して、約60年前の昭和30年代における子供たちの日々の暮らしや遊びを説明し、その後で実際に体験させました。

2 趣旨

大和村文化協会では小学校と中学校において、郷土の歴史や文化、自然に関する授業を実施しています。自分たちの住む大和村を知ることによってこれまで以上に興味がわき、大人になっても大和村へ愛着と誇りがもてる子供になることを目的としています。

3 概要

今年度は、大和村の4小学校による集合学習において、高学年の子供たちに「昔の子供の遊び」というテーマで授業を行いました。前半は、昭和30年代の子供たちの学校や家庭、そして集落における生活状況を紹介しました。当時の子供たちはどのような遊びをしていたのかを説明する中で、遊び道具は自分たちで作っていたこと、小学生にとって作るのが難しい遊び道具は中学生にお願いして作ってもらっていたことなどを、実物を見せながら話を進めました。

4 活動状況（竹ひご遊び）

- 親指大の竹を長さ15cm程度に切り割って半分にする。
- 5本一組にする。
- 表(皮側)が10点、裏(内側)が5点と決める。
- 5本の竹を上にはねあげ手の甲で受け止める、手を動かしたり返したりして、床に裏か表を揃えて、その点数で勝敗を決める。
- 4人～5人グループで行い3周程度行う。



(竹ひご遊びに興じる子供)

5 おわりに

今回は、「郷土の遊び」をテーマにした授業をしました。主に、昔の子供たちが室内でやっていた遊びを紹介して、その後で体験させました。

ほとんどの子供が手作りの遊び道具に興味をもち、特に、点数を競う遊びには夢中になって取り組み、楽しい授業になりました。これまで郷土芸能など文化的な授業をしてきましたが、今回のような昔の子供の暮らしや遊びの紹介も子供たちにとって身近で意義のあることだと実感できました。



(自身が中学生時代に作ったメジロ捕獲カゴの紹介)

宇検村文化協会の活動について

～関東宇検村会 100 周年を記念して～

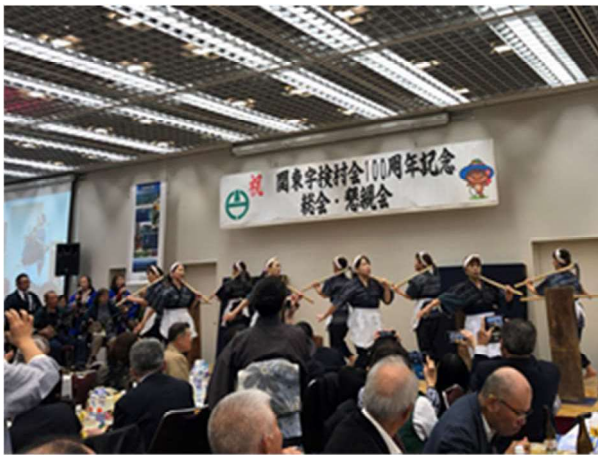
宇検村文化協会事務局 柳 華子

1 はじめに

宇検村文化協会は 13 の公民館講座と 2 つの文化団体の計 15 団体で組織されている。各団体とも積極的に活動に取り組んでおり，隔年おきに開催される村文化祭においても，所属している全団体が発表や展示に参加し，日頃の成果を披露している。その中でも，「芦検民謡保存会」と「湯湾八月踊り保存会」は各集落行事やイベント等にも積極的に参加し，活動の幅を広げている。

2 活動状況

関東地方に在住している宇検村出身者で結成されている「関東宇検村会」は令和 6 年に発足から 100 年を迎えた。100 周年を記念し，「関東宇検村会 100 周年記念総会・式典・懇親会」が東京都にて開催された。村からも村長をはじめ村議会議員，各集落区長など総勢 70 名が参加した中，「芦検稲すり踊り」と「湯湾八月踊り」を披露した。



【芦検民謡保存会】



【湯湾八月踊り保存会】

3 成果と今後の課題

「芦検民謡保存会」と「湯湾八月踊り保存会」は現在も定期的に練習に励み，様々な場で披露している。今回披露した関東宇検村会記念式典では，普段はシマを離れて暮らしている出身者の方々からも，チズンや三味線の音と踊りを実際に感じ，故郷を懐かしむ声が多くあった。活動範囲を広げていく事はもちろん，今後は，貴重な伝統文化が途絶えてしまうことがないように，後継者育成にも力を入れていきたい。

瀬戸内町文化協会の活動について

瀬戸内町文化協会会長 城山 洋子

1 はじめに

瀬戸内町文化協会は、地域文化の創造発展と併せて会員相互の親睦を図り、地域文化の振興に寄与することを目的とし、令和6年度は、加盟団体数39団体533名の会員で活動を行っています。令和5年度と比べ、加盟団体が2団体、会員数が70名も増加しており、特に子ども達の数が大幅に増えています。令和元年から、協会の自主事業として子ども文化祭を開催していることにより、子ども達の文化に対する意識が高まった結果ではないでしょうか。伝統文化及び芸術の担い手育成及び継承活動として、今後も引き続き地域文化を発信していきたいと思います。

瀬戸内町文化協会加入団体数・会員数の推移

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
加盟団体数	38団体	35団体	35団体	37団体	39団体
会員数	517	543	543	463	533

2 活動組織

各部門毎に理事を選出し、文化協会の目的達成のため協議し活動に向けています。

また、事業推進のため文化祭実行委員会及び子ども文化祭実行委員会を立ち上げ活動を行っています。

3 事業内容

- ・地域文化の継承、保存活動
- ・各種発表会及び展示会
- ・八月踊り大会
- ・文化祭
- ・地域文化の継承・保存活動助成金交付

4 今年度の活動内容

- ・瀬戸内町文化祭
- ・子ども文化祭

町文化祭での舞台発表及び展示の様子



【舞台発表】23 団体 204 名の出演者
【作品展示】12 団体 300 展余りの作品

令和5年度子ども文化祭（2月開催）での舞台発表及び展示の様子



舞台発表では10 団体 100 名余り，作品展示では3 団体の参加。
特に多くの古仁屋高校生が参加し，盛り上げてくれました。

5 今後の課題

瀬戸内町には、それぞれの集落において、古くから伝わる独自の伝統芸能があります。

コロナの影響で開催できなかった集落の豊年祭も、ようやく開催されつつありますが、高齢化や人口減少により地域文化保存継承にも影響しつつあります。文化協会においても高齢化が進み、文化祭・子ども文化祭以外に伝統芸能部門に特化したイベントの企画など新たな取り組みも検討しつつ、地域文化の保存継承・発展の中心的役割を担っていきたいと思います。また、次世代の担い手となる子ども達の伝統芸能の保存継承育成事業に力を入れ、底辺拡大に努めて参ります。